

飛驒牛繁殖の研修修了

2期生2人、就農へ意欲

岐阜大、JA全農岐阜、

県の3者による連携協議会が運営する「飛驒牛繁殖研修センター」の修了式が県庁で行われた。研修を終えた2期生2人が修了証書を受け取り、4月からの就農に向けた意欲を示した。

21年4月に入所した2期生は、いずれも愛知県出身の木村大介さんと花房知朗さんで、木村さんは海津市、花房さんは岡山県での就農

が決まっている。

県が誇るブランド牛「飛驒牛」を支える人材の育成と繁殖雌牛の増加を目的に、同センターは2019年3月に美濃加茂市の岐阜大応用生物科学部付属岐阜フイールド科学教育研究センター美濃加茂農場内に開設された。肉用牛の繁殖に関する必要な知識や技能を、講義や実習を交え2年間研修する。

修了式では、連携協議会長を務める雨宮功治県農政



研修を終え記念品を受け取る2期生＝県庁

部長が2人に修了証書と記念品のジャンパーを手渡した。副会長のJA全農岐阜の西村寿文県本部長は「学んだことを生かし、畜産業界を支えてほしい」、岐阜大の杉山誠副学長は「近い将来、飛驒牛の生産や品質向上などで助けてもらえれば」とエールを送った。木村さんは「牛飼いとして気持ちが高まってきた。努力を続けたい」、花房さんは「分からないことだらけだったが、多くの支えで頑張れた。一生懸命取り組み」と決意を語った。

(湯浅裕作)